伝統工芸 × meets デザイン

「デザイン工芸」の誘惑

〔上から時計回りに〕1 上出長右衛門窯×ハイメ・アジョン produced by 九谷焼「小径の秋子のような愛らしいユーモラスな鉢とモダンな壺の絵付（Photo©Koichiro Kutsuna）／ギルディング箔紙／七宝の技術を学ぶ、ヘラ・ヨンゲリウスさんのアトリエのファーストデザイナー／川本浩人さんデザインの漆器「Kuseto」8,400円～／「Steppotady」直径300×25万2千円／試作品を前にハイメさん

伝統に吹き込まれたデザインの風

今、日本の伝統工芸に世界から熱い視線が注がれている。小さいながらも卓越した技術を誇る工房に、世界の一流デザイナーから依頼が舞い込むことも少なくない。職人と国内外のクリエーターが分野を超えてコラボレーションし、今の暮らしと感性に合う作品を次々と生み出している。

伝統とは革新の連続である――。そう語る、老舗や職人は多い。時代、時代の生活様式や人々の趣向に合わせ、時に海外の文化を融合しながら、創意工夫を重ねてきたからこそ、長い歴史を経て、生き残ってきたのだと。

そして現在、和洋折衷のインテリアに囲まれ、毎日の食卓に上る料理も多彩になるなど生活スタイルの変化に伴い、伝統工芸の世界にも大きな変革が訪れているようだ。

代々受け継がれてきた職人技に、「デザイン」という新しい風を吹き込んだ工芸品。ネクストエージは、それを「デザイン工芸」と名付けよう。

文化やジャンルを超えた作り手同士の出会いには、どんな物語が潜んでいるのだろう。そこに、私たち使い手はどんな物語を重ねていこう。

使うたびに愛着が増す。日々の暮らしを豊かに彩る。そんなデザイン工芸の“物”語りをひも解こう。